

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300025		
法人名	社会福祉法人 東松山市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームあすみーる		
所在地	埼玉県東松山市松葉町2-5-37		
自己評価作成日	令和3年4月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年4月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共生型多機能センターあすみーる」として、小規模多機能居宅介護(基準該当型放課後デイサービス、生活介護、短期入所も実施)、障害者地域活動支援センター、認可外保育施設も併設しています。「わたしが・わたしでいること・支えあう」を指針とし、「あすみーるにはいろいろな人がいること」「いろいろな人がいることは極自然であること」「いろいろな人の中で自分は自分のままで良いのだ」ということが、職員もご利用者にも感じられるようになればと思っています。それは地域の方であり、生活者としての当たり前さにつながればよいと考えています。地域密着型の施設として地域住民や関係機関との連携を意識しながら運営を行っていますが、昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で、地域と一緒に取り組むことが難しくなりましたが、新たな生活様式を踏まえた活動を進めていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「共生型多機能センターあすみーる」として「グループホーム・小規模多機能居宅介護・障害者地域活動支援センター・こどもクラブ」が一体となり、入居者も大人も子どもも地域で共生していくための、多様な利用形態に対する支援が行われている。
 ・運営推進会議は、多方面の参加を得て開催され、意見や情報が共有されることで運営に活かされてきたが、コロナ禍で困難となり、事業所の報告を会議のメンバーに届けることで代替えとされている。
 ・目標達成計画については、高齢者サロン・文化祭・和の会等の地域の催しは、継続的に参加あるいは主催されてきたが、コロナ禍によりほとんどが中止となる中、月1回発行の広報誌を町内へ回覧する等、地域との関係の継続に努められていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえた上で、毎年、事業所としても目標を共有している。年度当初に、法人全体から課内、部門の目標について確認している。	「共生型多機能センターあすみーる」として「グループホーム・小規模多機能居宅介護・障害者地域活動支援センター・こどもクラブ」が一体となり、入居者も大人も子供も地域で共生していくための多様な支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しは新型コロナウイルスの影響があり、これまで参加していた、文化祭・ゴミ拾い・避難訓練・高齢者サロン等はすべて中止となってしまった。月1回広報紙を発行し町内へ回覧した。	高齢者サロン・文化祭・和の会等の地域の催しは継続的に参加もしくは主催されてきたが、コロナ禍によりほとんどが中止となる中、月1回発行の広報誌を町内へ回覧する等、地域との関係の継続に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が地域の中で暮らしている事を理解していただくよう散歩などで挨拶を日々行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、令和2年度は書面でのお知らせとなった。	多方面の参加を得て定期的開催され、意見や情報が共有され、運営に活かされてきたが、コロナ禍で開催が困難となり、事業所の報告を定期的に会議のメンバーに届けることで代替えとされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例、虐待事例では地域包括支援センターと連携し対応した。市主催の集団指導では、情報交換を行い指導も受けた。運営推進会議にも委員として連携している。	行政より感染症予防対策についての聴き取り調査が行われるなど、従来より質問や相談には適切な回答が得られており、地域の高齢者の相談場所として、地域包括支援センターとの緊密な関係も継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	課内での研修の実施、毎月指導職の会議にて身体拘束の有無についての確認を行い、日常のケアについて随時家族へ報告と相談をしながら進めている。	法人の在宅福祉課に所属している事業所が毎月合同で行われるリスク検討会の中で、身体拘束や不適切ケアなどに関する研修や自己評価が行われ、身体拘束を必要としないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	課内での研修の実施、年度当初に虐待に関するセルフチェックを全職員実施し、出てきた課題について年間を通して検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	課内での研修の実施、日々の実践や活用については随時対応した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度所定の様式にて契約を行うことが出来た。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の規定にのっとり、受付から対応まで行っている。	利用者とは日々の関わりの中で、家族にはコミュニケーションを深め、在宅福祉課では毎月意見や要望の検討会や2年に1回のアンケートが行われ、汲み取られた意見や要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がそれぞれ業務担当を持ち、日々実施している。また、月1回の職員会議で、意見や提案を募り、議論、決定している。	常勤職員が交代で日々のリーダーを務め、ベテランの非常勤職員のサポートを受け支援に当たることで、発言のし易い環境が培われ、会議での発言に繋がられている。また、個人面談と自己評価も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務管理・評価シートを上期と下期に2回提出し面談による人事考課を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに4月に全職員の目標や学びたい研修を確認し、研修計画を立てている。外部研修はリモートでの研修を実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス事業者が合同で行う研修に参加している。また、市が主催の集団指導に参加し情報を共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規に入所するとき、最初に計画作成担当者がご本人から要望などを伺っている。入居後は個別の担当者を中心に記録・報告・相談するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用時、ケアマネや管理者が家族からの要望や相談などに対応した。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規利用時、ケアマネや管理者が家族からの要望や相談などに対応した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯物をたたんだり家事などを通じて共に生活する者同士の関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お預かりしている小使いの管理を担当者が行い確認のための来訪について、担当から連絡・調整し来訪時に生活の様子等を伝えた。毎月発行している通信を送付し、様子を伝えた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通っていた理髪店に定期的に通っている方もいる。	家族・友人・知人等との面会は玄関先や窓越しに限定して行われ、定期報告には広報誌と写真など添えられている。今後、電子カルテの推進に併せてオンライン面会を可能とすることが検討されている。	高齢化とコロナ禍により、家族・友人・知人等との関係継続に日々努力されています。今後も、地域での生活継続のために、多種の関係継続支援のための手法が期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の場では、お互いを理解したり我慢することで関係性を築き、利用者同士が関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別の施設利用、入院になる方については、計画作成担当者を中心に、調整や引き継ぎを行うこととしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者も介護業務に入り、ご本人に状態の変化等を確認しながら計画を作成している。	性格や生活歴など、家族からの情報を参考に声掛けをし、出身地や若い頃の話等を傾聴することで相手の心を開き、汲み取られた思いや意向は、本人本位に検討され、各人の支援に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、家族や全支援者、本人からそれまでの生活等について確認している。利用後は生活などについて記録を残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画作成担当者も介護業務に入り、ご本人に状態の変化等を確認するとともに、日々の支援で気になること等があった際は、毎月のケア会議で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援を通じ、変化や気になることを記録に残し、計画作成時には担当者会議を行い、ご本人、ご家族にも意見をうかがいながら、計画を作成している。	利用者担当と計画作成担当者によるモニタリングを基にケア会議が行われ、家族や医師・訪問看護師の意見も得て介護計画が作成されている。また、定期的な見直しと変化が生じた場合の随時の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画書を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若い頃からの友人と交流が持てるよう支援を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域との連携も難しい一年であった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の医院へ定期的に受診している。在宅で関わっていた歯科の訪問診療も実施した。	利用者・家族の了承を得て町内の医院の受診が行われ、必要に応じて協力医療機関へ繋ぐ体制が作られている。また、専門医の受診は、医師との正確な情報のやり取りのために、家族と職員の同席が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の際、通院先の看護師に適宜情報を伝え、また医療面で気になることを質問し、疑問点を解決できるように努めている。また、医療連携を訪問看護ステーションと結び、定期的な訪問を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	計画作成担当者が、入院先主治医や看護師、ケースワーカーと連携し、入院中の情報や退院後の支援について確認等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のご利用者に対し、家族とともに、最後の過ごし方や思いに寄り添い対応した。	入居時に事業所の終末期に向けた方針が説明され、重度化した場合は「終末期ケア会議」が開かれ、家族との話し合いを重ねて、最適と思われる選択をしていただけるように支援が行われており、開設以来、複数の看取りの実績を持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの変更や見直しを定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定、夜間想定避難訓練を実施した。法人内で、事業継続計画(BCP)も作成しその為の研修会も実施している。	年2回の避難訓練が実施されてきたが、今年度は夜間想定訓練が行われた。災害種別のマニュアルの作成やハザードマップの確認も行われている。また、法人にて大規模災害時の事業継続計画(BCP)も作成されている。	コロナ禍の影響で例年通りの訓練の実施に至っていませんが、災害時は予期せぬことが想定されます。地域との協力体制を深めると共に、訓練の継続が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが十分気をつけるように努めている。不適切な対応や声掛けについて職員会議にて確認した。	他人に知られたくないことは知られないように注意が払われ、同性介助にも配慮がなされている。また、不穏な行動が見られた折には、発生要因をよく見極め、個人の尊厳を損なわないように対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション等の参加・不参加を確認したり 外出先を相談して決めるなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等を考慮し、休憩の要・不要を確認したり、レクリエーションへの参加や内容のリクエストなど確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面等行い、清潔を保っている。季節ごとに合った服装に気を付け、ご本人の意向も確認しながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が行えるわけではないが、調理や配膳、食器洗いや片づけなどを一緒に行うようにしている。	職員が献立を考えた手作りの食事が提供され、調理以外は、出来る利用者を手伝っていただいている。外食が出来ないので、お節やおやつ作りを楽しんでいただいております。今後、テイクアウトや出前の活用も検討されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し記録に残し、体調把握に努めている。また月に1回体重測定を行い体重の変化を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の食後に必ず行っている。また義歯を装着している場合は、ポリドントなどの入れ歯洗浄剤に浸し口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の回数等を記録し、体調把握に努めている。また、終始おむつとは考えず、排泄動作等を確認しながら、必要時におむつを使用するなどに努めている。	排泄パターンを把握し、日中は出来るだけトイレ排泄を原則に支援され、夜間は睡眠を優先しつつ、利用者個々の状況に合わせた対応がなされている。また、医師や看護師に相談して排便コントロールも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取を促しているが、主治医、看護師と連携し、個別に緩下剤や処方薬を使用し、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員の方に毎日の入浴は提供できていない。必要に応じ、足浴やシャワー浴を実施している。 入浴に気が進まない時は、時間をずらしたり、翌日に振替えるなどを行っている。	週3回を原則に希望や状況に応じて入浴が可能であり、広い浴室には個浴とリフト浴が備えられ、立位の困難な方も安心して入浴を楽しんでいただける。また、拒否者には時間や日を変えるなどの対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて休息を取っていただいている。休む時間もご本人の生活リズムに合うようにし、一斉消灯は行っていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表を頂戴し、職員が見やすい場所に保管、確認している。 薬が影響していると思われる体調変化等は主治医に相談し、ご家族へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意なこと・できることをお願いし、都度、感謝を言葉にする、など、誰もが主役になれたり、感謝されるときがあるようにすることが大切と職員が理解しながら対応に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩など実施した。	利用者の要望や状況に合わせて、花見や地域の祭り、高齢者サロンの催しなどへの外出が行われてきたが、高齢化とコロナ禍で外出が困難になる中、気候・天候の許す限り、近隣での散歩や外気浴が行われている。	利用者の状況に合わせて、種々の外出が行われてきましたが、長引くコロナ禍の中で、感染対策を図ったうえで、どのような外出が支援出来るかの検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理しているが、本人の希望に応じて一緒に買い物に行ったり、買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族宛の年賀状を作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、ご利用者の作成したものを飾ったりしながら、季節や楽しさを感じていただけるように努めている。	季節の花や利用者の書道作品、催しの写真等が飾られた共用空間は、現在は感染防止のため制限されているが、グループホーム・小規模多機能居宅介護・地域活動支援センター・こどもクラブが自由に行き来でき、利用者が思いおもしろい場所で過ごすこともできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し集団から離れてゆっくりしたい方等のために、玄関の前にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたものなどをお部屋にお持ちいただく等している。	馴染みの家具や家族の写真、創作品などが置かれ、生活習慣に合わせた居室となっており、入り口は職員と一緒に作られた飾りで特徴が出されている。また、職員中心に清掃が行われ共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに大きな文字で札をつけることでトイレの場所が分かり、誘導がなくてもご自身でトイレに行けるように工夫している。		